

『世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために』

私たち印刷事業者は、お客さまからの信頼に応えるために、業務の確実な遂行に日々努めています。これは、私たちが誇るべき企業体質ではあるのですが、ともすれば、独りよがりになることはないでしょうか？

個人情報保護については、プライバシー保護の観点から、本人目線での管理、言い換えれば本人の立場に立って不安や要求を想像しそれに応える管理が、ますます求められるようになってきています。

サイバーセキュリティについては、自分たちは大丈夫と思いついていても容易に踏み台にされ加害者になり得ることから、攻撃者目線に立って自社の管理体制の課題を洗い出し、必要な施策を講じることが、すべての事業者に求められるようになっているのです。

このたび、日本印刷産業連合会では、個人情報保護とサイバーセキュリティの2つのテーマにつき、それぞれの分野の第一人者をお招きし、表題のセミナーを開催することといたしました。最新の情報を共有できる貴重な機会となりますので、多くの皆さまのご参加をいただき、今後のビジネスや経営にお役立ていただければ幸甚の限りです。

記

日 時：令和元年7月30日（火）14:00 ～ 16:45（13:30開場）
会 場：日本印刷会館 2階大会議室（定員100名）
東京都中央区新富1-16-8
対 象：日印産連の会員団体・企業の皆さま
参加費：会員3,000円、非会員5,000円（消費税込み）

◆◆◆◆◆ テーマ名／講師 ◆◆◆◆◆

- 『個人情報保護の動向』
講師 情報セキュリティ大学院大学 学長補佐
情報セキュリティ研究科 教授 湯浅 壘道 様
- 『常に変化するサイバー脅威を直視しない企業の悲劇』
講師 (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事／上級分析官 名和 利男 様

◆◆◆◆◆ お申込み方法 ◆◆◆◆◆

- ◆ 裏面の「参加申込用紙」にご記入の上、下記までFAXして下さい。
〒104-0041 中央区新富1-16-8 日本印刷会館7階
(一社)日本印刷産業連合会 プライバシーマーク審査センター
FAX 03-3553-6091 TEL 03-3553-6065
- ◆ 申込締切：令和元年7月25日（木）
定員（100名）に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申込み下さい。
- ◆ お申込を頂いた後に、申込書に「聴講No」を記入の上FAX致します。当日必ずご持参下さい。
(開催日前日の午前中までに届かない場合はご連絡下さい。)

聴講 No.があることを確認の上、当日はこちらの参加申込用紙をご持参下さい

宛先：(一社)日印産連 プライバシーマーク審査センター 行 FAX 03-3553-6091
第1回個人情報保護研究セミナー『世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために』

【日時】令和元年7月30日(火) 14:00 ~ 16:45 (13:30より受付開始)

【参加費用】会員3,000円、非会員5,000円(当日資料、消費税含む) 当日、現金にてお支払い下さい(領収書発行)。

聴講 No なきは無効

参加申込用紙

聴講 No.

会社名	
部署名	
氏名(ふりがな)	様
所属団体名(組合)	
所在地(会社)	〒
電話	
F A X	※必ずご記入ください。

聴講 No.

下記の個人情報のお取り扱いに関する事項について、同意の上、FAXして下さい。

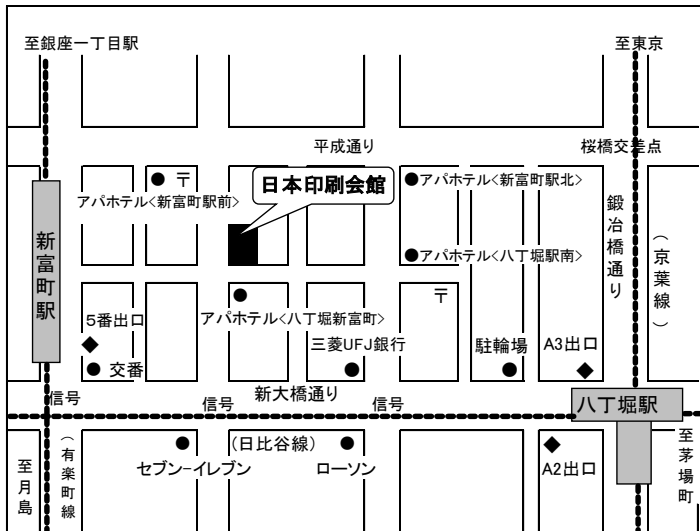
(個人情報のお取り扱いについて)

- ・事業者の名称：(一社)日本印刷産業連合会 担当部署責任者：プライバシーマーク審査センター 上村 護
- ・個人情報保護管理者：担当常務理事 TEL 03-3553-6065 FAX 03-3553-6091
- ・利用目的：弊会がご預かりした上記の個人情報は、セミナー参加のための手続き及び連絡に利用します。
- ・第三者への提供及び委託：取得した個人情報を第三者に提供、委託することはありません。
- ・開示対象個人情報の開示等及び問合せ窓口について：本人からの求めにより、本セミナーが保有する開示対象個人情報の利用目的の通知・開示・内容の訂正・追加または削除・利用の停止・消去等(「開示等」といいます。)に応じます。開示等に応じる窓口は、「SR部長」です。
- ・本セミナー参加申込で取得した個人情報は、セミナー終了後に弊会にて削除いたします。

(注意事項)

1. 1枚につき1名様お申し込ただけです。複数ご参加の場合はコピーしてお申込下さい。
2. 当日、現金にてお支払い下さい(領収書発行)。
3. キャンセルの場合は必ずご連絡下さい。プライバシーマーク審査センター TEL 03-3553-6065
4. お申込がありましたら申込書に「聴講 No.」を記入の上、FAX致します。当日必ずご持参下さい。開催日前日の午前中までに届かない場合はご連絡下さい。聴講 No. なきは無効です。
5. このセミナーの案内状に記載の講師、講演内容が事前の告知内容と異なる場合がございます。
6. 定員に達しご参加いただけない場合は、その旨ご連絡いたします。
7. お問合せ先(一社)日本印刷産業連合会 プライバシーマーク審査センター TEL 03-3553-6065

<会場案内図> 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館2階 ※ご来場の節は、公共の交通機関をご利用下さい。



◆ 新富町駅(東京メトロ有楽町線)
<5番出口・徒歩4分>

◆ 八丁堀駅(東京メトロ日比谷線・JR京葉線)
<A3番出口・徒歩7分>

『世界的規模で変貌する個人情報保護とサイバーセキュリティに向き合うために』

私たち印刷事業者は、お客さまからの信頼に応えるために、業務の確実な遂行に日々努めています。これは、私たちが誇るべき企業体質ではあるのですが、ともすれば、独りよがりになることはないでしょうか？

個人情報保護については、プライバシー保護の観点から、本人目線での管理、言い換えれば本人の立場に立って不安や要求を想像しそれに応える管理が、ますます求められるようになってきています。

サイバーセキュリティについては、自分たちは大丈夫と思い込んでいても容易に踏み台にされ加害者になり得ることから、攻撃者目線に立って自社の管理体制の課題を洗い出し、必要な施策を講じることが、すべての事業者に求められるようになっているのです。

このたび、日本印刷産業連合会では、個人情報保護とサイバーセキュリティの2つのテーマにつき、それぞれの分野の第一人者をお招きし、表題のセミナーを開催することといたしました。

記

日 時：令和元年7月30日（火）14:00 ～ 16:45（13:30開場）

会 場：日本印刷会館 2階大会議室（定員100名）

東京都中央区新富1-16-8

対 象：日印産連の会員団体・企業の皆さま

参加費：会員3,000円、非会員5,000円（消費税込み）

プログラム概要：

1. 14:00-14:05 挨拶 情報セキュリティ部会長 凸版印刷(株)情報セキュリティ本部
成澤 晃一
2. 14:05-15:35 情報セキュリティ大学院大学 学長補佐
情報セキュリティ研究科 教授 湯浅 壘道 様
『個人情報保護の動向』
(15:35-15:45 休憩)
3. 15:45-16:45 (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事／上級分析官 名和 利男 様
『常に変化するサイバー脅威を直視しない企業の悲劇』

講演概要：

1. 情報セキュリティ大学院大学 学長補佐
情報セキュリティ研究科 教授 湯浅 壘道 様

『個人情報保護の動向』

本講演では、個人情報保護に関する最新の動向について触れます。

EUのGDPR施行以来、個人情報保護については国際的な動向を無視することができなくなりました。またわが国の個人情報保護法についても、3年おきに見直すこととされており、現在見直しに向けた議論が進んでいます。見直しのポイントや、改正される可能性がある点などについて解説します。

<湯浅 壘道氏プロフィール>



慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程退学。九州国際大学法学部専任講師、助教授、准教授をへて2008年4月より教授。2008年9月より九州国際大学副学長。2011年4月より情報セキュリティ大学院大学教授、2012年4月より学長補佐を併任。九州大学・中央大学・愛知学院大学・横浜市立大学非常勤講師授、官公庁・各自治体の個人情報保護関係の審議会委員、ベネッセホールディングス情報セキュリティ監視委員会委員、(一財)日本サイバー犯罪対策センター理事などを務める。

2. (株)サイバーディフェンス研究所 専務理事／上級分析官 名和 利男 様

『常に変化するサイバー脅威を直視しない企業の悲劇』

日本国内の企業の一部では、「パソコンにウィルス(不正プログラム)を入れないようにすれば概ね安全」と間違った認識がある様です。結果、悲劇的なセキュリティ事故を経験するケースが後を絶ちません。

本講演では、まずサイバー攻撃の仕組みの変化について絵を使ってわかりやすく解説致します。また、セキュリティ対策に責任を持つべき部門が「情報システム部門」から、会社の数字に直接的に影響を与える「事業部門」に広がっていることを説明し、その流れで政府機関が企業経営者に適切なセキュリティ確保のための行動を促すための施策(「口だけ経営者」を排除するような施策を含む)を作り始めている状況についても紹介致します。

<名和 利男氏プロフィール>



海上自衛隊において、護衛艦のCOC(戦闘情報中枢)の業務に従事した後、航空自衛隊において、信務暗号・通信業務／在日米空軍との連絡調整業務／防空指揮システム等のセキュリティ担当(プログラム幹部)業務に従事。

その後、国内ベンチャー企業のセキュリティ担当兼教育本部マネージャ、JPCERTコーディネーションセンター早期警戒グループのリーダを経て、サイバーディフェンス研究所に参加。

専門分野であるインシデントハンドリングの経験と実績を活かして、CSIRT(Computer Security Incident Response Team)構築及び、サイバー演習(机上演習、機能演習等)の国内第一人者として、支援サービスを提供。最近では、サイバーインテリジェンスやアクティブディフェンスに関する活動を強化中。

以上